

履修方法について(博士後期課程)

仏教学専攻(博士後期課程)の履修について

授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修(面接授業)とメディア履修(メディアを利用して行う授業。情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する)を併用する授業となります(スクーリング・メディア履修(SI履修))。履修方法は、スクーリングの受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」(40,000字程度)を提出し、この成果により評価されます。

授業科目の履修について

必修科目「仏教学研究指導演習I」・「仏教学研究指導演習II」・「仏教学研究指導演習III」の3科目6単位を履修します。1年次に「仏教学研究指導演習I」、2年次に「仏教学研究指導演習II」、3年次に「仏教学研究指導演習III」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」(120,000字程度)を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することが諸事情で困難な場合、在学は最長6年間(休学を含まず)可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期(入学手続時に指示)に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「仏教学研究指導演習I」のスクーリングとして指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリングを1月までに全6回受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の大学院生全員が出席し、相互に質疑応答を行います。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」(40,000字程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 「仏教学研究指導演習I」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習I」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「仏教学研究指導演習II」の履修に進むことができます。不合格であった場合、2年次に「仏教学研究指導演習I」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングを1月までに全6回受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(40,000字程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「仏教学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、3年次に「仏教学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅲ」のスクーリングを全6回受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(120,000字程度)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 1～2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終審査を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了となります。なお、同時に「仏教学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

●補足

規定のスクーリング(面接授業)以外に、随時、面接指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学 生		指導教員
	授業科目の履修	「博士の学位請求論文」の作成	
		●3月「研究計画書(案)」提出	
1年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」1科目を履修 5月～1月にスクーリングとして面接指導を受講	●6月「研究計画書」提出 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承 ●研究、論文作成指導 ●随時、メディア等を利用して論文作成指導 ●次年度研究計画の指導
2年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」1科目を履修 1月までにスクーリングとして面接指導を受講	●7月～9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●「博士の学位請求論文」概要了承
3年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」1科目を履修 「博士の学位請求論文」提出までにスクーリングとして面接指導を受講	●博士論文作成 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」(120,000字程度)提出	●学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 ●「博士の学位請求論文」提出了承 ●研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○博士論文の提出にあたっては、以下の提出要件を充足していることが必要です。

- ①博士後期課程入学後に、日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会における1回以上の口頭発表
 - ②学内の査読付学術出版物に投稿された1点および日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会の刊行する査読付学術出版物に博士後期課程入学後に投稿された1点を含む2点以上の学術論文を有していること
 - ③学位請求論文の枚数は400字×300枚以上
- 「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。
- 1～2月中旬頃に口頭試問等による最終審査を実施した後、研究科教授会にて、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。

歴史学専攻(博士後期課程)の履修について

授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修(面接授業)とメディア履修(メディアを利用して行う授業。情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する)を併用する授業となります(スクーリング・メディア履修(SI履修))。履修方法は、スクーリングの受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」(40,000字程度)を提出し、この成果により評価されます。

授業科目の履修について

必修科目「歴史学研究指導演習Ⅰ」・「歴史学研究指導演習Ⅱ」・「歴史学研究指導演習Ⅲ」の3科目6単位を履修します。1年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅲ」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」(100,000字程度)を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することが困難な場合、在学は最長6年間(休学を含まず)可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期(入学手続時に指示)に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングとして指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリングを1月までに全6回受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の大学院生全員が出席し、相互に質疑応答を行います。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」(40,000字程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅰ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「歴史学研究指導演習Ⅱ」の履修に進むことができます。不合格であった場合、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングを1月までに全6回受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(40,000字程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「歴史学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。不合格であった場合、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅲ」のスクーリングを全6回受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(100,000字程度)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 1～2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終試験を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了となります。なお、同時に「歴史学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

●補足

規定のスクーリング(面接授業)以外に、随時、面接指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学 生		指導教員
	授業科目の履修	「博士の学位請求論文」の作成	
		●3月「研究計画書(案)」提出	
1 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」 1科目を履修 5月～1月にスクーリングとして面接 指導を受講	●6月「研究計画書」提出 ●7～9月 論文中間発表会 ●12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承 ●研究、論文作成指導 ●随時、メディア等を利用して論文 作成指導 ●次年度研究計画の指導
2 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」 1科目を履修 1月までにスクーリングとして面接 指導を受講	●7～9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への 投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●「博士の学位請求論文」概要了承
3 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」 1科目を履修 「博士の学位請求論文」提出までに スクーリングとして面接指導を受講	●博士論文作成 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」 (100,000字程度)提出	●学内外の研究発表の評価および 批判に基づき、研究指導 ●「博士の学位請求論文」提出了承 ●研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○博士論文の提出にあたっては、以下の提出要件を充足していることが必要です。

- ①学位請求論文提出までに2本以上の審査付論文を刊行済みであること
 - ②提出予定年度に、専攻の「中間発表会」(公開)において報告し、専攻会議で提出について承認を得ること(報告内容は、400字×100枚程度)
 - ③博士学位請求論文は、400字×250枚程度とする。
- 「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。
- 1～2月中旬頃に口頭試問等による最終試験を実施した後、研究科教授会にて、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。